

これからの大学入試

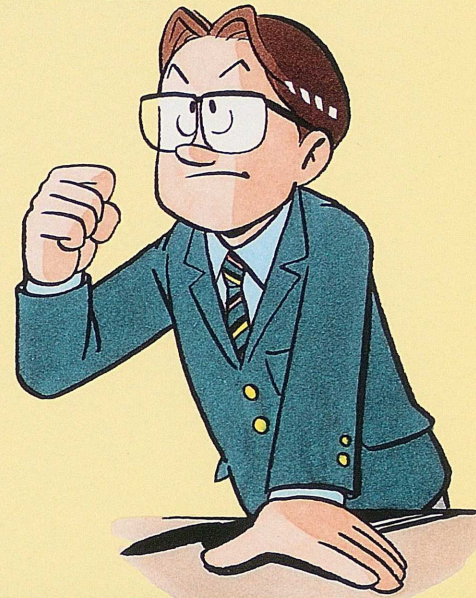


大学入試センター試験を活用して



入試に個性と特色を。

各大学それぞれに特色ある入試の実現を。大学入試センターは、その期待に応えます。



大学入試改善の方向

大学入学者の選抜は、①大学教育を受けるにふさわしい能力・適性などの多面的な判定、②公正かつ妥当な方法、③入試のために高等学校の教育を乱すことがないような配慮、が基本的に重要だとされています。また、高校生段階にある受験生の幅広い人間形成にも十分留意して、それぞれの個性や能力、適性を大切にした画一的でない大学入試が、今まさに求められています。

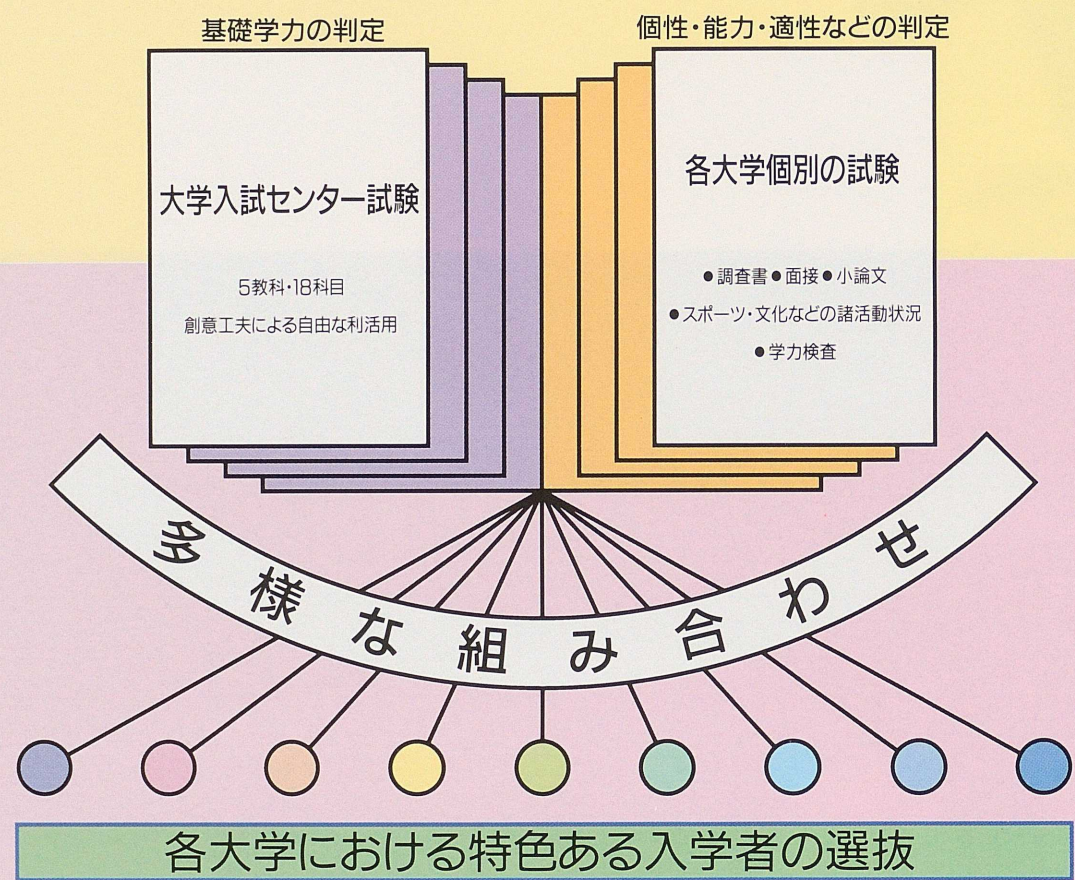
大学入試センター試験を活用して

これまでも入試制度そのものや各大学の入試方法について、さまざまな改革・改善が積み重ねられてきました。平成25年度からスタートした「大学入試センター試験」は、これらの実績の上に立って実施されている入試制度です。この試験は、各大学の創意工夫により、さまざまな形で活用することができるものです。この試験を活用した積極的な入試の改善が期待されています。

国公立大学の枠を超えて

各大学の入学者の選抜は、それぞれの学風、建学の精神に沿って、より个性的な改革で特色のあるものとして実施されること。平成25年度からスタートした「大学入試センター試験」は、これらに重要な役割を果たしています。この試験の趣旨や内容、実施結果などを、より多くの関係者の方に理解していただき、利用大学の輪が大きく広がっていくことが望まれます。大学入試の改善は、国公立すべての大学において着実に進められていくことが、何よりも大切と考えます。

各大学の特色ある入試をお手伝い。

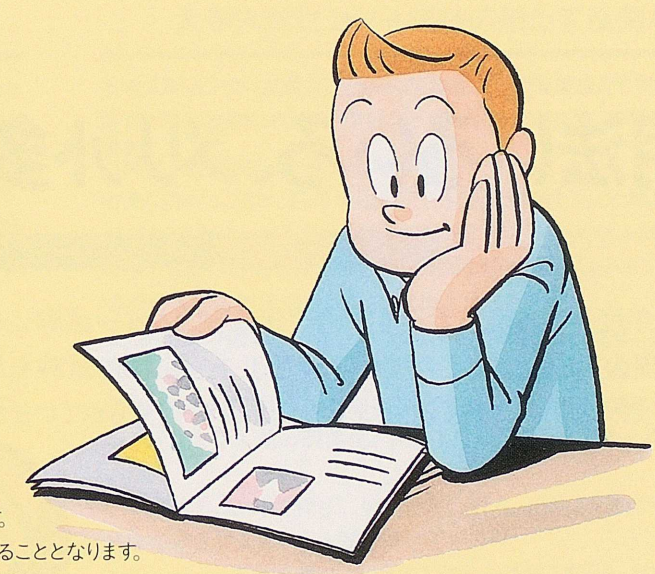


大学入試センター試験は、
利用大学ごとの自由な活用が基本。

大学入学者の選抜の具体的なあり方は、各大学それぞれの自主的な検討に待つべきもの。大学入試センター試験は、このことを前提とし、各大学が独自の判断と創意工夫により自由に活用できるように考えられた試験です。受験生ひとりひとりの能力や適性などが多面的に判定できるよう、この試験の成績を役立てていただくのが目的です。

教科・科目の利用の仕方は
各大学の考え方次第。

大学入試センター試験の5教科18科目のうち、特定教科・科目のみの利用も、もちろん可能です。また、調査書や面接、小論文、実技検査などと適切に組み合わせることで、各大学のカラーを鮮明に打ち出し、いわゆる輪切りや序列化に歯止めをかけることも期待されています。



平成6年度の出題教科・科目

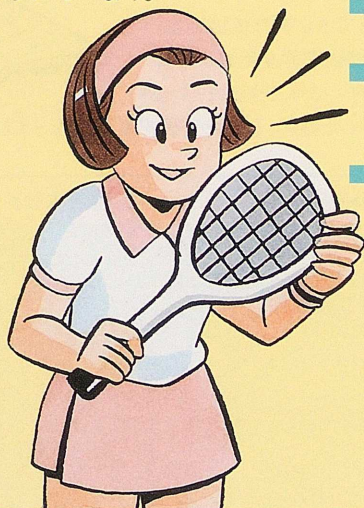
- 国公立、すべての大学が利用できる学力試験です。
- 高等学校教育にそって、良質な試験問題を用意します。
- 出題科目は、各大学が利用しやすいよう工夫されています。
- 受験者は大学があらかじめ指定した教科・科目を受験することとなります。

期 日	教科・科目	時間・配点	出題方法など	科目選択の方法など
平成6年 1月15日 (土)	外国語 「英語I・II」 「ドイツ語」 「フランス語」	10:00～ 11:20 (200点)		左の3科目のうちから1科目を選択し、解答する。 ただし、科目選択に当たり、「英語」のほか「ドイツ語」又は「フランス語」の問題冊子の配付を希望する場合は、大学入試センター試験の出願時に申告する。
	数学(A) 「数学I」	12:50～ 13:50 (100点)		
	数学(B) 「数学II」 「工業数理」 「簿記会計I・II」	14:40～ 15:40 (100点)	「数学II」の電子計算機と流れ図は、出題範囲から除く。 「数学II」については、「数学II」を履修した者並びに「代数・幾何」、「基礎解析」及び「確率・統計」のうち2科目以上を履修した者のいずれにも対応した出題とする。 「簿記会計II」は、前半の内容(①特殊な取引の記帳、②帳簿組織、③株式会社記帳)を出題範囲とする。	左の3科目のうちから1科目を選択し、解答する。 ただし、科目選択に当たり、「数学II」のほか「工業数理」又は「簿記会計I・II」の問題冊子の配付を希望する場合は、大学入試センター試験の出願時に申告する。
	理科(A) 「物理」 「地学」	16:30～ 17:30 (100点)	「物理」、「地学」の出題には、「理科I」に含まれるそれぞれの関連内容を含む。	左の2科目のうちから1科目を選択し、解答する。
平成6年 1月16日 (日)	理科(B) 「化学」 「理科I」	10:00～ 11:00 (100点)	「化学」の出題には、「理科I」に含まれる関連内容を含む。	左の2科目のうちから1科目を選択し、解答する。
	国語 「国語I・II」*	12:30～ 13:50 (200点)	「国語I」、「国語II」の範囲の近代以降の文章、古典(古文、漢文)を出題する。	
	社会 「倫理、政治・経済」 「日本史」 「世界史」 「地理」 「現代社会」	14:40～ 15:40 (100点)		左の5科目のうちから1科目を選択し、解答する。
	理科(C) 「生物」	16:30～ 17:30 (100点)	「生物」の出題には、「理科I」に含まれる関連内容を含む。	

※大学によっては、「近代以降の文章」のみの指定もあります。

利用法いろいろ、メリット多彩。

平成5年度に実施された第4回の大学入試センター試験においては、各国公私立大学が、それぞれ創意工夫をしてこの試験を活用。その成果については、さまざまな反響が寄せられています。



各大学での利用方法の一例

- 基礎的な学力を幅広く評価するため、5教科5科目を総合的に利用。
- 一般選抜の定員の一部について、大学入試センター試験の特定の教科・科目を利用。
- 利用する教科・科目に幅を持たせ、受験者が得意なものを選択させて利用。
- 大学が独自に行う2次試験の成績評価の参考資料として利用。
- 調査書と大学入試センター試験で第1次の選抜を行い、その合格者について面接試験を実施。
- 工学部において、大学入試センター試験の数学・外国語を利用。2次試験は理科のみを実施。
- 定員の一部について、大学入試センター試験と2次試験のうち、高得点のほうを合否の判定に使用。
- 推薦入学について、国語・外国語のみを利用し、2次試験として面接を実施。

実施によって得られた成果

- 大学入試センター試験を利用した選抜については、全科目に平均的な学力を有するオールラウンド型の学生が受験するなど、従来とは異なった層の学生を開拓することができた。
- 大学入試センター試験の利用により、今まで実施が難しかった小論文や面接を導入する余裕ができ、偏差値・輪切り型からの方向転換を図ることができた。
- 受験者が全国的に広がり、受験者数も従来より増加した。
- 大学のPRに役立ち、イメージアップが図れた。
- 女子の入学者数が従来の3倍以上という高率を示した。
- 大学独自の試験のみで選抜を行うよりも、広範囲の教科・科目を利用した広い視野から受験生の適性の評価が行えるようになった。
- 同一大学・学部を受験チャンスが1回増えたことが受験生に好評であった。

大学入試センター試験の果たす役割など

大学入試センター試験は、昭和54年度から平成元年度まで実施された共通第1次学力試験に代えて、平成2年度から実施されているものです。

難問奇問を排除した、良質な問題の確保
昭和53年度以前は、高等学校教育の程度や範囲を超えた難問奇問の出題が少なくありませんでしたが、共通第1次学力試験や大学入試センター試験の導入により、難問奇問を排除した良質な問題が確保されるようになり、現在、高等学校等の関係者からも高い評価を受けています。

2次試験との適切な組み合わせによる大学入試の個性化、多様化
2次試験において、小論文、面接等を実施する大学や、推薦入学、帰国子女・社会人を対象とした特別選抜を実施する大学が大幅に増えつつあり、このような大学入試の個性化、多様化に大学入試センター試験は貢献しています。

なお、2次試験の教科数は、年々減少し、現在、平均1.3教科となっています。

国公立大学を通じた入試改革
大学入試センター試験は、共通第1次学力試験と異なり、私立大学も利用できます。私立大学の参加は年々増えており(6年度入試では、73大学123学部)、利用した私立大学からも好評を得ています。

アラカルト方式による大学の序列化の回避
共通第1次学力試験は、一律に5教科を課していましたが、大学入試センター試験では、利用教科・科目を各大学が自由に指定できるアラカルト方式により、いわゆる輪切り、序列化を助長しないようにしています。最近、国公立大学においても、大学入試センター試験の多様な利活用が進んできています。

平成6年度大学入試センター試験利用大学—214大学—

国立大学

北海道大学
北海道教育大学
室蘭工業大学
小樽商科大学
帯広畜産大学
旭川医科大学
北見工業大学
弘前大学
岩手大学
東北大学
宮城教育大学
秋田大学
山形大学
福島大学
茨城大学
図書館情報大学
筑波大学
宇都宮大学
群馬大学
埼玉大学
千葉大学
東京大学
東京医科歯科大学
東京外国語大学
東京学芸大学
東京農工大学
東京芸術大学
東京工業大学
東京商船大学
東京水産大学
お茶の水女子大学

電気通信大学
一橋大学
横浜国立大学
新潟大学
長岡技術科学大学
上越教育大学
富山医科大学
金沢大学
福井大学
福井医科大学
山梨大学
山梨医科大学
信州大学
岐阜大学
静岡大学
浜松医科大学
名古屋大学
愛知教育大学
名古屋工業大学
豊橋技術科学大学
三重大学
滋賀大学
滋賀医科大学
京都大学
京都教育大学
京都工芸繊維大学
大阪大学
大阪外国語大学
大阪教育大学
兵庫教育大学
神戸大学
神戸商船大学

奈良教育大学
奈良女子大学
和歌山大学
和歌山医科大学
島根大学
島根医科大学
岡山大学
岡山医科大学
山口大学
徳島大学
徳島教育大学
香川大学
香川医科大学
愛媛大学
高知大学
高知医科大学
福岡教育大学
九州大学
九州芸術工科大学
九州工業大学
佐賀大学
佐賀医科大学
熊本大学
大分大学
宮崎大学
宮崎医科大学
鹿児島大学
鹿児島体育大学
琉球大学
95大学(全大学・全学部)

公立大学

釧路公立大学
札幌医科大学
※青森公立大学
※会津大学
福島県立医科大学
群馬県立女子大学
高崎経済大学
東京都立大学
横浜市立大学
富山県立大学
金沢美術工芸大学
福井県立大学
都留文科大学
岐阜県立大学
静岡県立大学
愛知県立大学
名古屋市立大学
名古屋市立芸術大学
京都市立芸術大学
京都府立大学
京都府立医科大学
大阪女子大学
大阪市立大学
大阪府立大学
神戸市外国語大学
神戸商科大学
姫路工業大学
※兵庫県立看護大学
奈良県立医科大学
奈良県立商科大学

和歌山県立医科大学
※岡山県立大学
広島県立大学
広島女子大学
下関市立大学
山口女子大学
高知女子大学
北九州大学
九州歯科大学
福岡女子大学
福岡県立大学
長崎県立大学
熊本女子大学
※宮崎公立大学
沖縄県立芸術大学
46大学(全大学・全学部)

私立大学

東日本学園大学 薬学部
商学部
※看護福祉学部
北海道工業大学 工学部
八戸大学 商学部
八戸工業大学 工学部
東北工業大学 工学部
足利工業大学 工学部
白鷗大学 経営学部
法学部
※関東学園大学 経済学部
法学部
駿河台大学 法学部
経済学部
江戸川大学 社会学部
※淑徳大学 社会学部
聖徳大学 人文学部
千葉工業大学 工学部第一部
経営学部
亜細亜大学 経営学部
経済学部
法学部
国際関係学部
※大妻女子大学 社会情報学部
桜美林大学 文学部
国際学部
※経済学部
※杏林大学 社会科学部
慶應義塾大学 法学部
医学部
※国士館大学 政経学部第一部
法学部

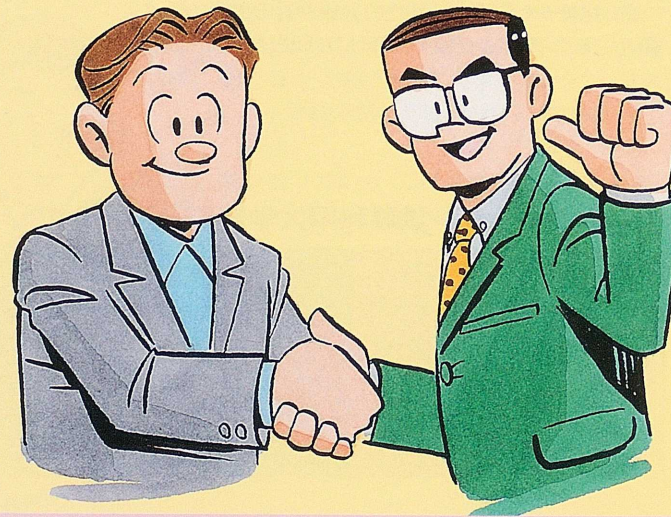
国士館大学 文学部
工学部
昭和女子大学 文学部
家政学部
拓殖大学 工学部
多摩大学 経営情報学部
東京工科大学 工学部
東京薬科大学 薬学部
東京理科大学 理学部第一部
薬学部
工学部第一部
理工学部
基礎工学部
※経営学部
東邦大学 理学部
東洋大学 工学部
日本大学 国際関係学部
生産工学部
歯学部
新潟歯学部
日本社会事業大学 社会福祉学部
武蔵工業大学 工学部
※桐蔭学園横浜大学 工学部
工学部
東洋英和女学院大学 人文学部
※敬和学園大学 人文学部
新潟産業大学 社会学部
高岡法科大学 法学部
福井工業大学 工学部
山梨学院大学 法学部
商学部
※聖隷クリスティー看護大学 看護学部
常葉学園大学 教育学部

常葉学園大学 外国語学部
常葉学園浜松大学 経営情報学部
愛知大学 経済学部I部
経営学部
愛知工業大学 工学部I部
愛知淑徳大学 文学部
椋山女学園大学 生活科学部
※文学部
人間関係学部
中京女子大学 体育学部
家政学部
豊田工業大学 工学部
名城大学 法学部第一部
理工学部第一部
※薬学部
松阪大学 政治経済学部
京都橘女子大学 文学部
立命館大学 法学部第一部
経済学部第一部
※経営学部第一部
理工学部
※国際関係学部
龍谷大学 文学部
経営学部
経済学部
法学部
社会学部
理工学部
工学部
※関西外国語大学 外国語学部
近畿大学 農学部
工学部
※生物理工学部

近畿大学 工学部
※相愛大学 人文学部
※阪南大学 商学部
経済学部
神戸国際大学 経済学部
松蔭女子学院大学 文学部
流通科学大学 商学部
作陽音楽大学 音楽学部
美作女子大学 家政学部
※広島工業大学 工学部
環境学部
松山大学 経済学部
経営学部
※松山東雲女子大学 人文学部
※九州共立大学 経済学部
工学部
※九州国際大学 法経学部第一部
※久留米大学 法学部
文学部
産業医科大学 医学部
福岡工業大学 工学部
※九州東海大学 工学部
農学部
熊本工業大学 工学部
熊本商科大学 商学部第一部
経済学部
73大学123学部

※印は、平成6年度から新たに利用

協議・協力し、スムーズに実施。



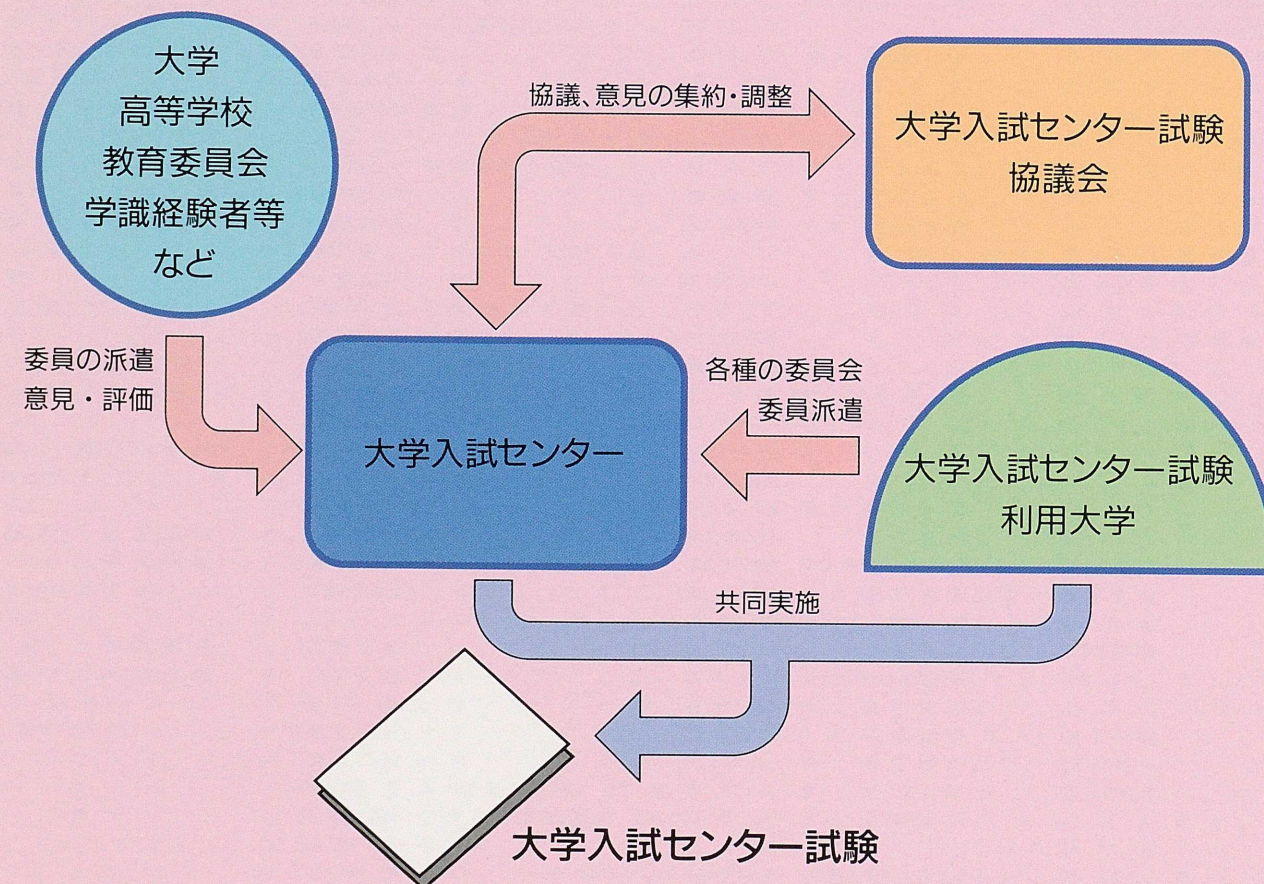
国公立の各大学が共同して
試験の実施に当たります。

大学入試センター試験は、この試験を利用する国公立大学が大学入試センターと協力しながら、大学入学者選抜の一部として、共同して実施するものです。また、この試験に関し、国公立大学間でその改善や充実、及び意見の集約・調整などを行う協議組織として「大学入試センター試験協議会」が置かれており、試験実施に関する重要事項については、この協議会で慎重に協議を重ねたうえで決定されます。

大学入試センターが試験問題の作成、
答案の採点などを担当します。

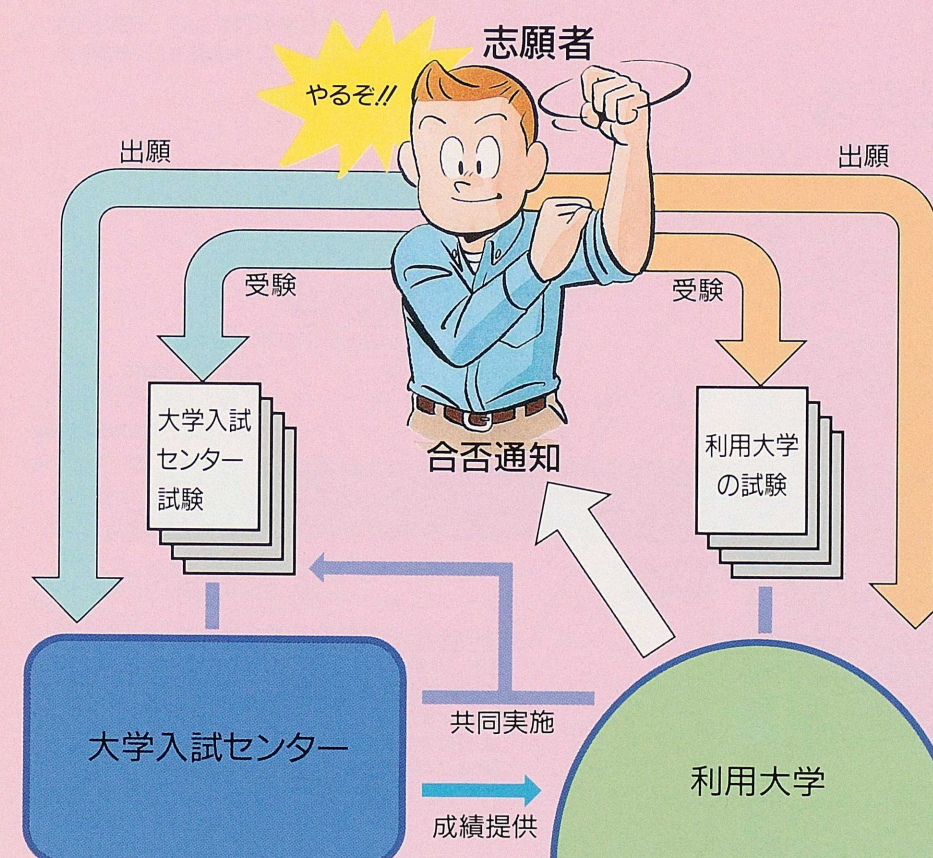
大学入試センターは、主として問題の作成や印刷、答案の採点、集計など、試験の実施にあたり一括して処理することが適当な業務を担当しています。試験問題は、国公立大学の教員によって作成され、その内容については、学識経験者、高等学校関係者からの意見・評価を受けています。なお、大学入試センターの運営に関しては、各種委員会を通して各大学・高等学校関係者などの意見が十分に反映されるようになっています。

大学入試センター試験の運営



7

大学入試センター試験を利用した入試の仕組み



8

利用大学の役割

- 大学入試センター試験の利用教科・科目及び各大学の学力検査などの予告
- 試験場の設定、試験監督者などの選出
- 志願者への受験案内の配付
- 試験の実施
- 答案の整理、大学入試センターへの返送

大学入試センターの役割

- 試験問題の作成、印刷、輸送
- 受験案内、実施マニュアルなどの作成
- 出願の受付、試験場の指定、受験票の交付
- 答案の採点、集計
- 試験成績などの各大学への提供

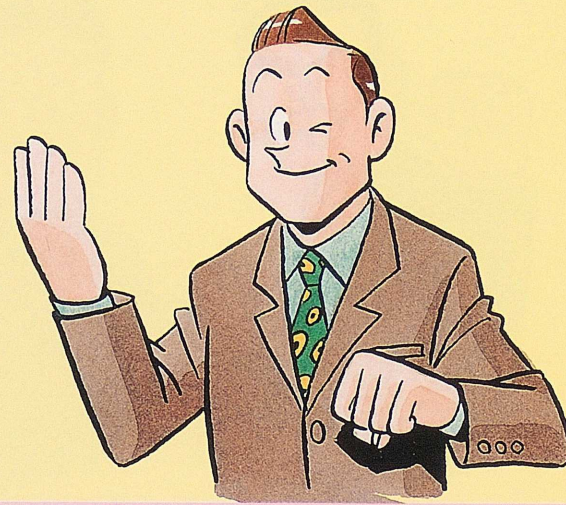
◎ 検定料／3教科以上受験14,000円、2教科以下受験9,000円(予定)

◎ 出願方法／高校卒業見込者は在学高校経由。高校卒業者は直接郵送。

◎ 試験場／原則として——高校卒業見込者は在学高校が所在する試験地区内の試験場。

高校卒業者は居住する試験地区内の試験場。

お答えします 大学入試センター試験。



Q&A

大学入試センター試験を利用する大学のメリットは何ですか。

大学入試センター試験は、国公立大学がわけへだてなく利用でき、しかも各大学の創意工夫に基づいて多様に活用できる試験です。そのため、独自の学風や建学の精神に基づいた特色ある選抜が可能になり、大学教育を受けるにふさわしいさまざまなタイプの優秀な学生が確保され、大学の活性化が図れるものと考えます。また、基礎的学力の判定をこの試験によることとすれば、受験生の能力や適性を多面的に判定する独自の試験を実施するゆとりが生まれ、受験生ひとりひとりの個性を重視した、より丁寧な入試を行うことが期待できます。

大学入試センター試験の出願に当たって、特に注意すべき点はどんなことですか。

大学入試センター試験は、国公立大学を除いて、すべての私立大学が利用するわけではありません。したがって、自分が志望しようとする大学・学部が、大学入試センター試験を利用するか否か、利用する場合どのような利用方法なのかを、募集要項等で十分確認し、併願校との関係も考えながら、受験教科・科目を決める必要があります。なお、出願期間が試験実施日よりかなり早い時期（今年度は10月15日から26日まで）ですので、期間内に確実に出願手続を済ませるようにしてください。また、身体に障害を有する志願者は、受験に当たって特別の措置が受けられますので、出願の際に、特別措置の内容等を受験案内（別冊）により、十分確認して、所要の手続きをとる必要があります。

各受験生の成績はどのように扱われるのですか。

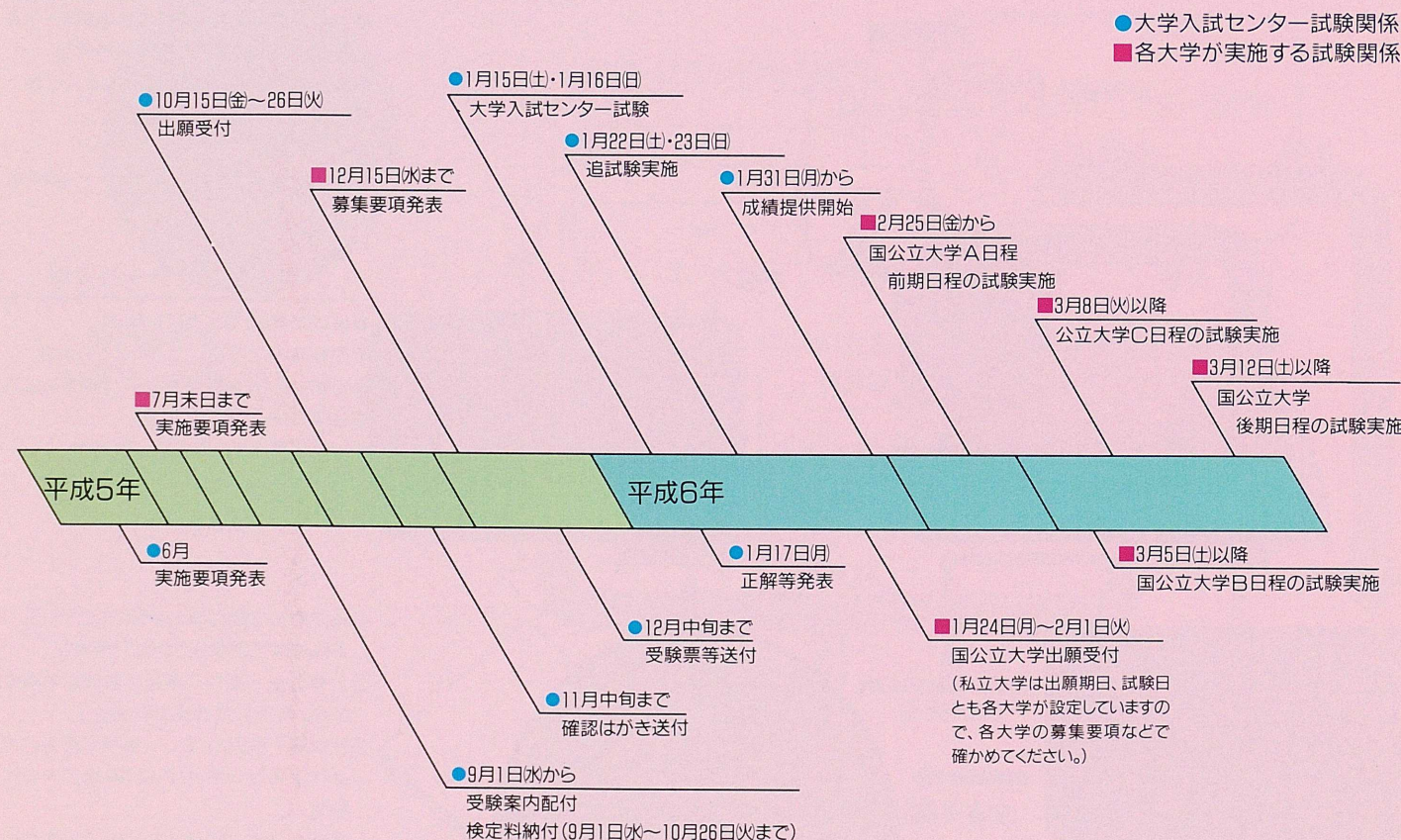
答案は、大学入試センターで一括して採点します。その成績は、受験生が出願した大学からの請求に基づき、その大学に対してのみ提供します。受験生に対しては、正解と配点は試験終了直後に、また、平均点・最高点・最低点などの結果は2月上旬頃に、いずれも報道機関を通じて発表します。

大学入試センター試験の詳しい資料や情報はどこで入手できますか。

平成6年度受験案内の配付
配付時期 平成5年9月1日(水)から
配付場所 大学入試センター試験利用大学

●問い合わせ先
大学入試センター事業第一課
☎03-3465-8600
月曜～金曜 9時30分～17時(祝日を除く)
※原則として問い合わせは受験生本人が行ってください。

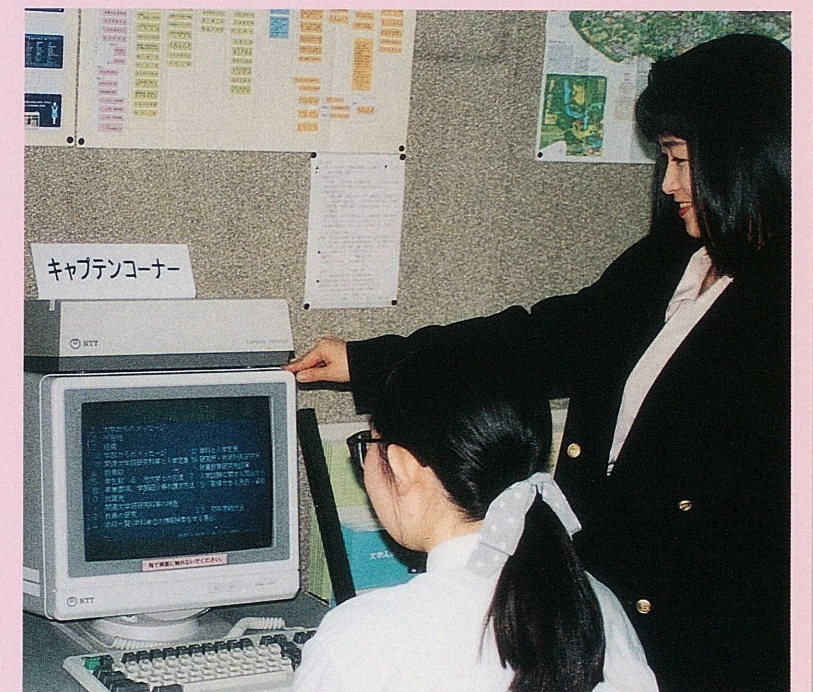
SCHEDULE 平成6年度入学者選抜実施日程 大学入試センター試験利用大学

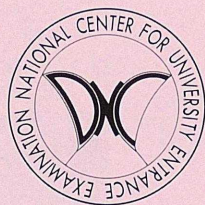
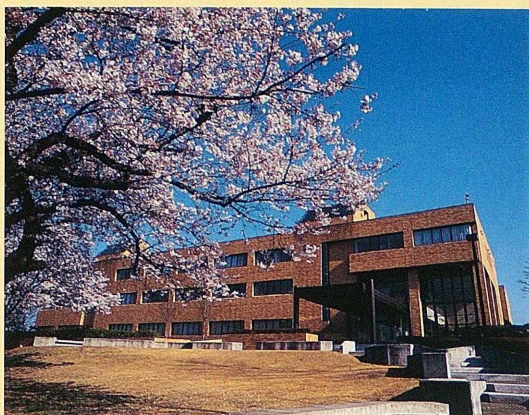


HEART SYSTEM ハートシステム 大学進学案内情報サービス

大学入試センターが全国ネットのキャプテン通信網を通じて、大学の進学案内に関する情報の提供を行っているものです。この進学案内は、志望する学部・学科等が全国のどの大学に設置されているかなどの情報を即時に知ることができるシステムです。その内容は、「志望大学の選択」、「大学案内」、「ハート速報」、「入試案内」、「編入学情報」の5つのメニューで構成されています。また、通常のパソコンに「汎用モデム(2400b/s全二重モデム)」を接続し「キャプテン端末」としても利用できます。ハートシステムは、平成5年3月現在、全国の高等学校のうち約1,100校に導入されています。

「ハートシステム」の内容については
大学入試センター管理部進学情報課
☎03-3468-3311(代)
端末機の導入については
NTT画像通信事業本部
☎0120-443322 フリーダイヤル





文部省

大学入試センター

〒153 東京都目黒区駒場2丁目19番23号

☎03-3468-3311(代)

1993年(平成5年)5月発行